

1 日本国憲法と政治のしくみ

配当時間 全 14 時間
学習時期 4～5月 教科書 P.8～35

小単元「1日本国憲法と政治のしくみ」のねらい

日本国憲法の基本的な考え方に着目して、ユニバーサル都市をめざす福岡市の障がいをもつ青年たちの活動を手がかりに、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現することを通して、日本国憲法は国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は、日本国憲法の基本的な考え方にもとづいていること、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解することができる。

小単元「1日本国憲法と政治のしくみ」について

本小単元では、大単元導入において、JOY倶楽部の青年たちの活動を糸口として、国や地方公共団体の政治は、日本国憲法の三大原則にもとづいておこなわれていることに気づかせ、憲法と政治が国民の暮らしにどう関わっているかを調べる。単元の終末では、それまでの学習を振り返り、学習問題について深め合う。そして、憲法の考え方を生かしていくための問題を「さらに考えたい問題」として調べ、友だちの考えを聞き、自分たちの生活との関わりについて自分の考えをまとめる展開としている。

小単元「1日本国憲法と政治のしくみ」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1 学期	4 月	大単元の導入 ①	・JOY 倶楽部の青年たちの活動写真や「考えよう！SDGs」などから、人々の願いが政治の働きと結びつきがあることに気づき、憲法や政治学習への意欲を高めることができる。	【主体的】 みんなが幸せになる願いが、政治の働きと結びつきがあることに気づき、憲法や政治学習への意欲を高めている。
			幸せな生活を送る権利 ①	・JOY 倶楽部の青年たちの活動は、基本的人権の保障や政治の働きにつながることで、そして、その基本的人権の保障と政治は、日本国憲法にもとづくものであることを理解することができる。	【知・技】 JOY 倶楽部の青年たちの話や友だちのカードから、彼らの活動が基本的人権の保障や政治の働きにつながることを理解している。
			日本国憲法とは ①	・日本国憲法と政治が、自分たちの暮らしとどのようにつながっているのかについて、学習問題を考え、調べる計画を立てることができる。	【主体的】 日本国憲法と政治が自分たちの暮らしとどのようにつながっているのかについて、進んで調べる計画を立てている。
			基本的人権と国民の権利・義務 ①	・基本的人権と国民の義務について、自分たちの暮らしと関連づけて考え、適切に表現することができる。	【思・判・表】 基本的人権と国民の義務について、自分たちの暮らしと関連づけて考え表現している。
			人権に関する問題への取り組み ①	・身のまわりには、人権に関する多様な問題があり、その問題を解決するために、国が法律をつくっていることを理解することができる。	【知・技】 基本的人権に関する問題を通して、日本国憲法と法律などの決まりとの関係を理解している。
			国民主権とは ①	・日本国憲法の前文の内容から、国民主権の考え方や、国民が選挙を通じて政治に参加する制度を保障していることを理解することができる。	【知・技】 現在の日本の民主政治は、日本国憲法の基本的な考え方である国民主権の考え方と深く関わっていることを理解している。
			国会のはたらき ①	・国の政治が、国会、内閣、裁判所の三つの機関でおこなわれていることを調べ、障害者差別解消法の法律ができる仕組みや選挙を通じて、国民と国会との関わりや国会の働きについてとらえることができる。	【知・技】 国会が国の唯一の立法機関であることや、衆議院、参議院など国会のはたらきについて理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……日本国憲法と政治や国民生活との関わりについて、憲法の基本的な考え方をつかみ、我が国の民主政治は、日本国憲法の基本的な考え方にもとづいていることを理解するとともに、各種の資料を効果的に活用して調べ、調べたことや考えたことを表現している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……日本国憲法の基本的な考え方や国の政治、国民生活との関わりについて、各種の資料を効果的に活用するとともに、調べたことや考えたことなどを目的に応じた方法で分かりやすくまとめている。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……日本国憲法と我が国の政治や国民生活との関わりについて主体的に調べるなかで、我が国は、日本国憲法にもとづいて平和な国際社会の実現をめざし、その努力を続けていくことが必要であるという自覚がもてている。

前期	1 学期	4 月	5 月	
前期	1 学期	内閣のはたらき ①	・内閣の仕組みの図や税金の収入、支出のグラフ資料を調べ、税金の使い道や各省庁の役割など、内閣の働きについて理解することができる。	【知・技】 内閣や各省庁によって国の政治がおこなわれていることを理解している。
		裁判所のはたらき ①	・裁判所の仕組みを通じて、裁判所の働きを理解し、国会、内閣、裁判所の三権分立の仕組み、各機関の働き、裁判と国民との関わりについてとらえることができる。	【知・技】 裁判所の働きについて調べ、三権分立について理解している。
		平和主義と人々の願い ①	・日本国憲法の平和主義の実現をめざす国や地方公共団体、国民の取り組みの意味を考え、適切に表現することができる。	【思・判・表】 日本国憲法の平和主義の実現をめざす取り組みの意味を考え、ノートにまとめている。
		平和の実現をめざして ①	・世界で平和の実現のために力をつくした日本人や、日本での平和の実現につながる取り組みを調べ、平和主義の考えが、どのように実現されているのか、理解することができる。	【思・判・表】 中村さんや緒方さん、理事長さんの話から、平和主義の考え方が、どのように実現されてきたのか、写真や話から説明している。
	5 月	わたしたちの暮らしとのつながり ①	・わたしたちの暮らしと、日本国憲法や政治とのつながりについて考えをまとめ、話し合いを通して考えを見直し、クラスで深め合いをしている。	【思・判・表】 発表者の考えの良いところを取り入れ、自分の考えを見直している。
		さらに考えたい問題 ①	・日本国憲法の三大原則について話し合われている問題から、調べてみたい問題を見出し、分かったことをカードにまとめている。	【思・判・表】 いろいろな資料を調べ、資料から分かることや取り組みをまとめている。
		考えたことを広げ深めよう ①	・発表者の意見の同じところや異なるところを見出し、良い点を取り入れて自分の考えを見直し、吹き出しに書いている。	【思・判・表】 調べたい問題についての考えを資料を根拠に、自分の考えを見直したり、深めたりしている。

2 わたしたちの願いと政治のはたらき

配当時間 全5時間
学習時期 5月 教科書 P.36～45

小単元「2わたしたちの願いと政治のはたらき」のねらい

待機児童問題解消の計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、各種の資料で調べたり、市役所の人に話を聞いたりしてまとめ、国や区（地方公共団体）の政治の取り組みをとらえ、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や区の政治は、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解することができる。

小単元「2わたしたちの願いと政治のはたらき」について

導入で、待機児童の問題をとらえ、住民の願いを考え、それをもとに学習問題を立て、区や国、東京都などの待機児童解消の取り組みと税金の使いみちを調べる。

次に、住民の待機児童解消への願いを実現する予算案を審議する区議会の仕組みや働きを調べ、学習問題について話し合い、自分たちができるところを考え、区へ提案する展開としている。

各教室の授業では、児童の関心や地域の実態に応じて、社会保障、自然災害からの復旧や復興などの取り組みから選択して取り上げることが期待される。

小単元「2わたしたちの願いと政治のはたらき」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	5月	待機児童についての問題 ①	・待機児童に関する資料から、共働き家庭、核家族の増加による待機児童の増加を調べ、子どもをもつ家庭は、子育てのための支援の願いをもっていることに気づくことができる。	【思・判・表】 日本各地で待機児童が多いことが問題であることを知り、そのことと共働き世帯や核家族の増加とに関係があることに気づいている。
			東京都足立区の住民の願いと区役所のはたらき ①	・足立区の待機児童への取り組みを調べ、区がどのように住民の願いを実現していくのかについて、学習問題を考え、調べる学習計画を立てることができる。	【主体的】 自分が調べたいことを明らかにし、学習問題を話し合い、学習計画を立てている。
			待機児童の問題への取り組み ①	・「足立区役所待機児童ゼロ対策担当の人の話」をもとに待機児童対策について調べ、住民の願いをかなえる取り組みについて、区の果たす役割をまとめ、費用から税金の使い方に着目し、税金の種類や働きについて理解することができる。	【知・技】 住民の願いである待機児童への取り組みを調べ、区役所がさまざまな政策を実行するために、国や東京都からの補助金や、区民からの税金が多く使われていることを理解している。
			区議会のはたらき ①	・「住民の願いが実現するまでの流れ」や「足立区議会事務局の人の話」などを調べ、住民の願いを実現するための区役所や区議会の働き、取り組みについて、理解することができる。	【知・技】 住民の願いを実現するための区役所や区議会の働き、取り組みについて、理解している。
			わたしたちの提案 ①	・区役所や区議会の働きをもとに、学習問題についての自分の考えをまとめ、自分たちの区の政策、予算に着目し、自分と政治の関わりについて考える。	【思・判・表】 区役所や区議会の働きをもとに、学習問題についての自分の考えを話し合い、ノートに工夫してまとめている。

小単元の観点別評価規準

- ▶知識・技能 ……待機児童の社会的な問題について、市民のいろいろな要望を聞き実現していく区（地方公共団体）や国の政治は、国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解するとともに、見学・調査したり、各種の資料で調べたりして、まとめている。
- ▶思考・判断・表現 ……待機児童などの福祉政策と、区（地方公共団体）や国の政治との関わり、区の政治の仕組み、政策の計画から実施までの過程、法令や予算など、国民生活における政治の働きを考え、表現している。
- ▶主体的に学習に取り組む態度 ……待機児童などの福祉政策や、日常生活における政治の働きや区（地方公共団体）の政治の仕組みに関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究している。

せんたく 自然災害からの復旧や復興の取り組み（P.46～51）

二学期制	三学期制	月	小見出し	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	5月	平成26年広島豪雨災害・平成30年西日本豪雨災害	広島市で起きた豪雨災害の様子とその被害や復旧・復興の様子について関心をもち、話し合いを通して学習問題につなげることができる。	【主体的】 広島市の土砂災害で被害にあった人々の思いや願いを受けて、政治はどのような働きをしたのかについて関心や問題意識をもち、学習計画を立てようとしている。
			災害の発生と政治のはたらき	災害が起きたときに、国や都道府県、市（区）町村などの行政やそのほかの連携機関は、被災者の人々の思いや願いにこたえるために、どのような取り組みをおこなっているのか理解することができる。	【知・技】 災害が起きたときに、国や都道府県、市（区）町村などの行政や、そのほかの連携機関がおこなう取り組みについて理解している。
			災害復興に向けた取り組み	災害時や災害復旧後の災害復興に向けた国や都道府県、市（区）町村の取り組みを理解するとともに、地域の人々による取り組みについても理解することができる。	【知・技】 災害時や災害復旧後の災害復興に向けて、国や都道府県、市（区）町村がおこなう取り組みや、地域の人々による取り組みについて理解している。

せんたく 経験をむだにしないまちづくり（P.52～57）

二学期制	三学期制	月	小見出し	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	5月	水俣市の挑戦	わたしたちの願いを実現するために、国や県、市（区）町村などがどのように関わり合いながら政治をおこなっているか、話し合いを通して学習問題につなげることができる。	【主体的】 水銀に関する水俣条約や環境モデル都市づくりなどの取り組みから、国や都道府県、市（区）町村がどのように関わり合いながら、地域の開発や活性化をおこなっているかについて関心をもとうとしている。
			水俣市による地域の活性化	国や都道府県、市（区）町村が人々の願いを実現するために、互いに協力して地域の開発や経済の活性化のために様々なことに取り組んでいることを理解することができる。	【知・技】 国や都道府県、市（区）町村が人々の願いを実現し生活の安定と向上を図るために、互いに連携して地域経済の活性化や雇用機会の創出のために様々な取り組みをおこなっていること理解している。
			地域活性化のための取り組み	環境に配慮したまちづくりのほかに、水俣市が市民の願いを実現する取り組みを調べ、農林水産物のブランド化など、考えたことを話し合うことができる。	【思・判・表】 市役所の人の話や、市の取り組みの写真を調べ、興味をもって気づいたことを話し合っている。

1 大昔のくらしとくにの統一

配当時間 全9時間
学習時期 5～6月
教科書 P.62～83

小単元「1大昔のくらしとくにの統一」のねらい

狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子などに着目して、遺跡、遺物について、地域にある博物館などを利用して調べたり、当時の様子や人物の働きなどを資料で調べたりして、「くに」としての我が国の歴史が形づくられるまでの様子や過程について理解することができる。

小単元「1大昔のくらしとくにの統一」について

導入では、縄文時代と弥生時代の様子を描いた想像図を比較し、学習問題を考える。狩猟・採集の生活や農耕が始まった頃の生活の様子、古墳の出現と広がり、大和朝廷（大和政権）の支配の広がりについて調べ、「くに」としての我が国の歴史が形づくられるまでの過程を学習する展開としている。

さらに、国の形成や地域の統一の様子を物語る神話や『風土記』をコラムで取り上げ、当時の人々のもの見方や考え方に関心をもつように構成している。

小単元「1大昔のくらしとくにの統一」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二期制	三期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	5月	(磯田道史先生からの手紙) 大単元の導入 ① 自分たちの住むまちのなかに、歴史のサインを見つける 博物館を探検する 調べたことをまとめる	・我が国の歴史は、様々な人物が活躍したり、出来事が起こったりして変化してきたことを、大阪府堺市に残る遺跡や文化財について調べ、歴史のサインを見つけ、歴史の学習への関心をもつとともに、歴史を学習するときに必要な調べ方やまとめ方について理解することができる。	【主体的】 我が国の歴史の変化から、歴史の学習への関心をもち、主体的に問題を追究しようとしている。
			大昔のくらし ②	・縄文時代と弥生時代の様子を描いた想像図の比較を通して、自分たちの生活と比べながら、大昔の人々の生活の様子に興味・関心をもち、くらしの変化についての学習問題を考え、学習の見通しをもつことができる。	【主体的】 大昔のくらしの変化について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てている。
			狩りや漁の生活 ①	・三内丸山遺跡や縄文時代の遺跡からの出土品をもとに、狩りや漁、採集をしていた時代の人々のくらしや社会の様子をとらえ、理解することができる。	【知・技】 三内丸山遺跡や縄文時代の遺跡からの出土品をもとに、縄文時代の人々のくらしや社会の様子を理解している。
			米作りが広がったころ ①	・米作りが広がったころの人々のくらしの様子を調べ、人々のくらしや社会の変化をとらえることができる。	【知・技】 米作りによって人々のくらしや社会がどのように変わったのかを理解している。
		6月	むらからくにへ ①	・吉野ヶ里遺跡などを調べ、小さなむらが大きくなりにへと統一されていく社会の変化を考えることができる。	【思・判・表】 米作りの広がり大きくなりにの成り立ちを関連づけて、社会の変化を考え、ノートに工夫してまとめている。
			古墳づくりと渡来人 ①	・大仙（仁徳天皇陵）古墳の様子、出土品や古墳のつくり方などから、強い力をもった王や、豪族が現れた古墳時代の様子や新しい文化を伝えた渡来人の役割を考えることができる。	【思・判・表】 古墳の大きさや出土品、古墳づくりのようすなどから、当時の社会の様子について考え、ノートにまとめている。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手がかりに、むらからくにへと変化したことを理解するとともに、遺跡、遺物について、地域にある博物館などを利用して調べたり、当時の様子や人物の働きなどを資料で調べたりして、まとめている。
- ▶ **思考・判断・表現** ……大昔の人々はどのような生活をしてきたか、世の中の様子はどのように変わったか、だれがどのように力をのばし国を治めたかを、調べたことを比較したり関連づけてりして、世の中の様子の変化を考え、表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……「くに」としての我が国の歴史が形づくられるまでの狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追究している。

前期	1学期	6月	大和朝廷とくにの統一 ①	・各地に大きな力をもった豪族が出現した古墳時代の様子調べ、大和朝廷が、進んだ技術や新しい文化を伝えた渡来人との結びつきを強め、国を統一していったことを理解している。	【知・技】 古墳時代の様子調べ、大和朝廷が渡来人との結びつきを強め、国を統一していったことを理解している。
			学習問題について話し合う ①	・縄文時代・弥生時代・古墳時代の社会の仕組みと関連づけながら、国の起こりについて考え、適切に歴史新聞に表現することができる。	【思・判・表】 縄文時代・弥生時代・古墳時代の社会の仕組みと関連づけながら、国の起こりについて表現している。

2 天皇を中心とした政治

配当時間 全6時間
学習時期 6～7月
教科書 P.84～97

小単元「2天皇を中心とした政治」のねらい

大陸文化の摂取や大化の改新、大仏造営、人物の働き、代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料を調べ、まとめ、表現することを通して、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解するとともに、それらの事象に関連する聖徳太子、中大兄皇子、聖武天皇、行基らの業績や法隆寺、東大寺の大仏などの優れた文化遺産について理解することができる。

小単元「2天皇を中心とした政治」について

聖徳太子が大陸の文化を取り入れつつ、天皇を中心とした政治をめざしていたことを理解させて学習問題をつくり、太子がめざした天皇中心の国づくりが中大兄皇子や中臣鎌足に引き継がれ税や労働の仕組みが生まれたこと、聖武天皇の仏教にもとづく中央集権的な政治が大仏づくりに象徴されていること、また当時の民衆の生活や大陸との関係を調べる展開としている。終末では、学習問題について、まとめた図をもとに話し合う活動を展開している。

小単元の観点別評価規準

- ▶知識・技能 ……大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手がかりに、天皇中心の政治が確立されていった様子を理解するとともに、それらの事象に関連する聖徳太子、中大兄皇子、聖武天皇、行基らの業績や法隆寺、東大寺の大仏などの優れた文化遺産について理解している。
- ▶思考・判断・表現 ……聖徳太子、中大兄皇子、聖武天皇、行基らの業績や大陸との関係、人々の生活の様子に着目して、どのように天皇中心の社会が形成されていったのかを考えたり、調べたことや考えたことを表現したりしている。
- ▶主体的に学習に取り組む態度 ……天皇中心の社会が確立されるまでの人々のくらしや人物の働き、海外の国と日本の国との関わりについて考え、意欲的に追究しようとしている。

小単元「2天皇を中心とした政治」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	6月	法隆寺と聖徳太子 / 聖徳太子の政治 ①	・法隆寺建設の想像図や聖徳太子がおこなった政治を調べ、当時の社会の様子や、どのように天皇中心の国づくりが進められていったのか考え、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	【主体的】 法隆寺創建の想像図や聖徳太子がおこなった政治の仕組みを調べ、聖徳太子がおこなった国づくりに関心をもっている。
			新しい国づくり ①	・中大兄皇子や中臣鎌足らによる大化の改新によって、大陸の政治の仕組みを参考にした天皇中心の国づくりが進められていったことを理解することができる。	【知・技】 中大兄皇子や中臣鎌足が取り入れた税制や労働、大陸からの文化の摂取によって、強力な天皇中心の国づくりの基盤ができたことを理解している。
			平城京と聖武天皇の願い ①	・大仏がつくられたころの世の中について調べ、聖武天皇が、仏教の力で国を安定させようとしたことを考えることができる。	【思・判・表】 東大寺の大仏づくりに込められた願いについて考え、聖武天皇がどのように国を治めようとしたのかを考えている。
			行基と大仏づくりを支えた人々 ①	・東大寺の大仏は、行基の協力を得て、全国からたくさんの人と材料を集めてつくられたことを理解することができる。	【知・技】 全国からたくさんの人と材料が集められて大仏がつくられたことを理解している。
			よみがえる人々のくらし ①	・貴族の食事と農民の食事を比べ、当時の人々の生活の様子や身分による違いを理解することができる。	【知・技】 当時の食事の写真などから、当時の人々の生活の様子や、身分による違いについて読み取っている。
			大陸から持ち帰ったもの ①	・遣唐使らによって、奈良の都に中国や西アジアなどの影響を受けた文化が伝えられ、栄えていたことを理解することができ、学習問題について考えたことを図にまとめ、話し合うことができる。	【知・技】 遣唐使が果たした役割について考え、外国との交流が当時の国づくりに大きな役割を果たしていたことを理解している。

3 貴族が生み出した新しい文化

配当時間 全3時間
学習時期 7月 教科書 P.98～103

小単元「3 貴族が生み出した新しい文化」のねらい

貴族の屋敷や生活の様子、藤原道長の政治、かな文字を使った文学作品、今に伝わる年中行事に着目して、貴族の政治や中国との関わり、日本風の文化が生まれ、かな文字を使った源氏物語や枕草子が生まれたことや、貴族のくらしから生まれた年中行事が、今も受け継がれていることを理解することができる。

小単元「3 貴族が生み出した新しい文化」について

導入で、貴族の屋敷の想像図や食事、服装、藤原道長の政治などを調べ、学習問題を立てる。

次に、学習問題を追究することから、菅原道真、大和絵やかな文字、紫式部『源氏物語』、清少納言『枕草子』、年中行事を学習する。

最後に、貴族のくらしから生まれた年中行事が、今も受け継がれていることを気づかせるとともに、貴族の政治や中国との関わり、日本風の文化が生まれ、かな文字を使った源氏物語や枕草子が生まれたことを学習する展開としている。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……平安時代の貴族の生活や文化について、日本風の文化が生まれたことを理解するとともに、今に残る写真や絵画等の資料で調べ、当時の貴族の生活や文化に関する情報を適切に読み取り、調べたことをまとめている。
- ▶ **思考・判断・表現** ……平安時代の貴族の生活や文化について調べたことを、当時の文化の特色や当時の時代背景と関連づけたり総合したりして、考えことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……平安時代の貴族の生活や文化について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追究するとともに、当時の貴族がおこなっていた、現在にまで受け継がれている年中行事や遊び、かな文字といった現在の日本とのつながりについて考えようとしている。

小単元「3 貴族が生み出した新しい文化」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	7月	貴族のくらしを調べる ①	・「貴族のやしきのようす」を読み取ることを通して、当時の貴族のくらしを想像し、平安時代の文化に関する学習に興味をもって、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	【主体的】 藤原道長及び、平安時代の貴族のくらしぶりに着目し、進んで学習問題を考え、学習計画を立てている。
			貴族のくらしから文化が生まれる ①	・文化が生まれ発展した背景、当時の文化の様子、現在とのつながりなど、貴族が生み出した文化について理解することができる。	【知・技】 資料から、この時代に生まれた新しい文化の様子を読み取り、それらを理解している。
			今に続く年中行事 ①	・このころにおこなわれた年中行事や遊びが、今も続いていることを理解し、学習問題に対して自分なりの意見を持ち、話し合うことができる。	【思・判・表】 貴族の文化について調べたことを、残されている物や年中行事、当時の時代背景、さらには現在と関連づけて考え、表現している。

4 武士による政治のはじまり

配当時間 全5時間
学習時期 9月 教科書 P.106～115

小単元「4武士による政治のはじまり」のねらい

源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いに着目して、鎌倉時代以降、約650年もの間、武士による統治が続いていくが、その世の中は、どのように生まれ、どのように広がったのかについて、地図や年表、想像図などの資料を生かして、武士の生活は貴族の生活と比べ、大きな違いや変化が生まれたことや、貴族にかわって武士が政治をおこなうようになったことを理解することができる。

小単元「4武士による政治のはじまり」について

導入では、武士と貴族の生活の比較を通して、違いや変化を読み取り、武士の台頭に関する問いを見つける学習活動を設定している。子どもの中には武士は「戦う」「一国の主」という力強い荘厳なイメージをもつ児童もいるだろうが、そのイメージとは異なる農村に住む武士の姿と、そのくらしの様子を読み取ることで、武士の始まりについて、より関心を高められるようにしたい。また、執権政治の基盤となる「領地」というものにも着目させ、単元後半で学習する「御恩と奉公」の関係につなげられるようにする。

小単元「4武士による政治のはじまり」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	2学期	9月	武士のくらし ①	・武士のくらしと貴族のくらしを比べる活動を通して、貴族にかわって武士が国の政治をつかさどるようになったことを学ぶとともに、当時の社会の様子や人々の生活の移り変わりについて関心をもち、学習への意欲を高めることができる。	【主体的】 想像図などをもとに武士のくらしと貴族のくらしの違いについて考え、武士が力をもつことによって、世の中の様子がどのように変わったかを学習問題を立てて調べようとしている。
			源氏と平氏の戦い ①	・武士がどのように全国に勢力を広げ、政治の表舞台に立ったかを理解するとともに、その後、長く続く武家の政権がどのように成り立ち、武士はどのような願いをもって世の中をつくっていったのかを考えることができる。	【思・判・表】 多くの武士が平家から源頼朝の味方になった理由を調べ、自分の考えを表現している。
			源頼朝と鎌倉幕府 ①	・鎌倉に幕府を開いた頼朝の意図と、どのようにして武士による全国支配を可能にしていったのかを知るとともに、その政権の安定に不可欠な御家人との協力体制をその後の政権も引き継ぎ、幕府の政治を進めたことを理解することができる。	【知・技】 鎌倉幕府が安定して全国を治めるために守護・地頭を置いたことや、街道を整備したことを理解している。
			元との戦い ①	・元との戦いについて、絵詞や写真などの資料をもとに戦いの様子をつかみ、幕府と御家人たちが協力して戦ったことを調べることができる。	【知・技】 元との戦いにおいて、鎌倉幕府と御家人がどのように応じたのかを調べ、幕府の命令のもと、御家人たちが協力して戦ったことを理解している。
			元との戦いのあと ①	・元との戦いのあと、御恩と奉公の関係が成り立たず、鎌倉幕府と御家人の関係がくずれ、幕府が減じたことを理解することができる。学習問題について自分の意見をまとめ、話し合うことができる。	【知・技】 鎌倉幕府が減じた要因と、その後も武士の世の中が続いていくことを理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……武士が台頭してきたことや源平の戦いの様子、鎌倉幕府の政治の仕組み、元との戦いなどについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、鎌倉に幕府が置かれたころに武士による政治が始まったことを理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……世の中の様子や人物の働き、代表的な文化遺産などに着目して問いを見出し、貴族のくらしとの比較をしたり、鎌倉幕府の政治の仕組みや元との戦いなどについて、考えたりして適切に表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……武士が台頭してきたことや源平の戦いの様子、鎌倉幕府の政治の仕組み、元との戦いなどについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

5 今に伝わる室町の文化と人々の暮らし

配当時間 全4時間
学習時期 9月 教科書 P.116～123

小単元「5今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」のねらい

足利義満・義政、雪舟や代表的な文化遺産・金閣・銀閣、茶の湯や生け花、能などに着目して、写真や絵画、文化財、年表などの資料を調べ、まとめ、話し合い、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解することができる。

小単元「5今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」について

今の祇園祭と「洛中洛外図屏風」に描かれた祇園祭の様子を比べることで、この時代の文化が今に伝わっていること、それらは現在のわたしたちの暮らしにも関わりがありそうだということに、児童自身が気づけるようにする。そして、文化や政治、人々の暮らしについて調べ、それらをもとに、この時代に生まれた文化が今に伝わっている理由を考えていくことを通して、歴史を学ぶ楽しさを味わえるようにする。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画を手がかりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたこと、産業が発達してきたことを理解するとともに、地図や各種資料で調べ、まとめている。
- ▶ **思考・判断・表現** ……京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画をつくった人の働き、今に受け継がれている文化や産業などに着目し、当時の世の中の様子や文化の特色について考え、表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……京都の室町に幕府が置かれていたころに生まれた今に伝わる文化や産業について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追究するとともに、学習したことを振り返りながら、今の暮らしや自分との関わりについて考えようとしている。

小単元「5今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	2学期	9月	京都に幕府がおかれたころのようす ①	・ 絵図をもとに、朝廷があり、幕府が置かれた京都の様子と、今も残る祇園祭について調べ、室町時代の文化の特色や現在の暮らしとの関わりについて関心をもち、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	【主体的】 室町時代の文化の特色や現在の暮らしとの関わりについて関心をもち、学習問題を考え、学習計画を立てている。
			金閣と銀閣を調べる ①	・ 金閣と銀閣に関わる資料を活用して、金閣と銀閣の建造物としての特徴や、義満や義政が將軍だったころの様子について調べることができる。	【知・技】 義満や義政が將軍だったころの文化や世の中の様子を、写真や資料などを活用して理解している。
			今に伝わる室町文化 ①	・ 室町時代に広まった様々な文化を調べ、当時に生まれたこの文化が、日本の伝統文化や現代も親しまれる文化になっていることを理解することができる。	【知・技】 室町時代に広まった様々な文化が、日本の伝統文化や現代も親しまれている文化になっていることを理解している。
			鎌倉・室町時代を生きた人々のくふうや努力 ①	・ 鎌倉・室町時代の貴族や武士以外の人々の様子をとらえ、室町時代の産業の発達や現代とのつながりを、これまでの時代と比較しながら考え、学習問題について話し合うことができる。	【思・判・表】 鎌倉・室町時代の産業の発達や現代とのつながりについて、これまでの時代と比較しながら考え、自分の考えをまとめている。

6 戦国の世の統一

配当時間 全6時間
学習時期 10月 教科書 P.126～135

小単元「6戦国の世の統一」のねらい

鉄砲やキリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉について、群雄割拠の状態から戦国の世を統一したことを、想像図や文書、年表、地図などの資料を効果的に活用し、具体的に調べ、キリスト教が我が国に広がったことや、鉄砲を多用する織田信長が短い間に領地を広げ、楽市楽座、城下町づくり、キリスト教の保護などの新しい政策をおこなったこと、豊臣秀吉が検地や、刀狩をおこない天下を統一したことなどを、広い視野から理解することができる。

小単元「6戦国の世の統一」について

導入の想像図「今から約500年前の市のようす」をもとに戦国時代の人々の生活やまちの様子について、活発となった商業や河川を利用した物の流通などから具体的なイメージをもたせる。

次に、「長篠合戦図屏風」を手がかりに、鉄砲という新しい武器による戦い方の変化、天下統一に向けて2人の武将に対して関心をもたせ、ザビエル、織田信長、豊臣秀吉の人物調べ、信長が短い期間で領土を拡大し、楽市楽座やキリスト教の保護を進めたことや、秀吉が検地や刀狩を通して戦国の世を統一し、兵農分離、朝鮮の侵略、全国支配をしたことをとらえさせたい。終末の振り返りでは、2人の武将がどのように戦国の世を統一したかについて話し合い、自分の考えをまとめさせたい。

小単元の観点別評価規準

- ▶知識・技能 ……鉄砲やキリスト教が伝来し、織田信長・豊臣秀吉による天下統一と新しい政策（楽市楽座、城下町づくり、キリスト教の保護、検地、刀狩）が進んだことを理解するとともに、想像図や文書資料、年表、地図などの基礎資料を効果的に活用し、具体的に調べている。
- ▶思考・判断・表現 ……織田信長や豊臣秀吉の働きについて問題意識をもって追究し、天下統一の事業が多くの大名や百姓などをおさえて進められていったことを考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。
- ▶主体的に学習に取り組む態度 ……戦国時代の様子や、戦国の世に活躍した織田信長や豊臣秀吉に関心を持ち、意欲的に調べ、考えている。

小単元「6戦国の世の統一」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	2学期	10月	安土桃山時代の人々のくらし ①	・教科書の「今から約500年前の市のようす」をもとに戦国時代の人々やまちの様子について具体的にイメージをもち、活発となった商業や河川を利用した物の流通のあり方について考えることができる。	【主体的】 「今から500年前の市のようす」の想像図をもとに、戦国時代の人々や生活の様子について想像している。
			長篠の戦いを調べる ①	・教科書の「長篠合戦図屏風」をもとに、鉄砲という新しい武器による戦い方の変化、天下統一に向けての2人の武将に対して学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	【主体的】 「長篠合戦図屏風」をもとに、鉄砲が伝わり、戦いの仕方が変化したことを読み取り、2人の武将について興味関心を高め、学習計画を立てている。
			鉄砲とキリスト教が日本に伝わる ①	・日本と外国との関わりを調べ、海外からの貿易船がやってきて、キリスト教や鉄砲が伝わり、広まったことを理解することができる。	【知・技】 教科書の資料や本文をもとに、キリスト教や鉄砲が広まったことを理解している。
			新しい時代を切りひらいた織田信長 ①	・織田信長の人物調べを通して、短い期間に信長が領土を拡大したことや、信長の天下統一の進め方について理解することができる。	【知・技】 教科書の資料をもとに織田信長の人物像や働きについて理解している。
			豊臣秀吉の天下統一 ①	・豊臣秀吉の人物調べを通して、信長の意志を引き継ぎ天下を統一し、検地や刀狩を通して戦国の世を終わらせたことを理解することができる。	【知・技】 教科書の資料をもとに豊臣秀吉の人物像や働きについて理解している。
			学習問題について話し合う ①	・2人の武将が戦国の世をどのように統一していったかについて話し合い、分かったことや自分の考えなどをまとめることができる。	【思・判・表】 2人の武将がおこなったことを整理し、ノートやカードにまとめている。

7 武士による政治の安定

配当時間 全5時間
学習時期 10月 教科書 P.138～147

小単元「7武士による政治の安定」のねらい

徳川家康や家光がおこなった事績に着目して、徳川家康が関ヶ原の戦いで勝利を収め、江戸に幕府を開いたことを取り上げて調べ、江戸幕府による政治が始まったことが分かるようにする。そして、大名の全国配置の仕組みと参勤交代制度の始まり、身分制度の確立、キリスト教の禁止や海外との貿易の統制にともなう鎖国の実施について取り上げ、江戸幕府による政治が安定したことを理解することができる。

小単元「7武士による政治の安定」について

導入で関ヶ原の戦いの概要や徳川家康の人物調べをおこない、江戸幕府による全国支配が固められたことを理解し、学習問題をつくり、学習計画を立てる。

展開では、武家諸法度や参勤交代の実施、身分制度の確立で幕藩体制が強固なものになったことをおさえるとともに、キリスト教の禁止や鎖国の理由について調べ、鎖国下でおこなわれた貿易の様子や外国との交流、アイヌや琉球王国との関わりをとらえさせたい。

終末では、江戸幕府がおこなった政策について振り返り、単元のまとめとして学習問題について話し合う。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……関ヶ原の戦いを経て徳川家康が江戸に幕府を開いたこと、江戸幕府の大名配置や、武家諸法度、参勤交代を通して幕府政治を固めたこと、身分制度の確立、鎖国、外国との交流（朝鮮、琉球、アイヌの人々との関わり）について、絵図や地図・読み物資料を活用し、武士による政治が安定したことを理解できるようにする。
- ▶ **思考・判断・表現** ……絵図資料や地図、グラフなどから、江戸幕府の政治の安定について読み取り、さらに身分制度の確立や外国との交流による問題点に気づき、調べたことや考えたことをノートにまとめ、学習問題について話し合っている。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……江戸幕府の政治の安定とその過程での問題点に気づき、大名支配の強化、身分制度の確立、外国との交流などの様子について関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究しようとしている。

小単元「7武士による政治の安定」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	2学期	10月	江戸幕府を開いた徳川家康 ①	・徳川家康の人物調べを通して、江戸に幕府が開かれ、幕府による全国支配が固められていったことを理解し、江戸幕府の政治の仕方などについて学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	【知・技】 教科書の資料をもとに徳川家康の人物像や働きについて理解している。
			江戸幕府による大名の支配 ①	・大名の配置や武家諸法度などについて調べ、江戸幕府が大名支配を強めていったことに関心を持ち、資料から江戸幕府の大名支配について読み取ることができる。	【知・技】 地図やグラフ、写真、本文記述をもとに、江戸幕府がどのような大名支配の仕組みをつくりあげたかを読み取っている。
			江戸時代の身分制と人々の暮らし ①	・幕府や藩は、武士による支配体制を維持・強化していくために、身分の違いをもとに、より一層、身分の固定化を図ったことを考え、自分の意見を発表することができる。	【思・判・表】 幕府や藩が身分の違いをもとに、より一層、身分の固定化を図ったことを考えて、ノートに自分の考えをまとめている。
			キリスト教の禁止と貿易の取りしまり ①	・島原・天草一揆やキリスト教の禁止、鎖国の理由について調べ、鎖国下での貿易の様子について理解することができる。	【知・技】 キリスト教の禁止と鎖国の理由について調べ、鎖国下での貿易の様子について理解している。
			江戸時代の外国との交流 ①	・オランダとの貿易や朝鮮通信使などについて調べ、鎖国政策のもとでの外国との交流の様子、あわせて北海道や沖縄の歴史について関心を高めるとともに、学習問題について話し合うことができる。	【主体的】 貿易や朝鮮通信使などについて調べ、日本との関係について関心を持っている。

8 江戸の社会と文化・学問

配当時間 全6時間
学習時期 11月
教科書 P.148～161

小単元「8江戸の社会と文化・学問」のねらい

江戸幕府が政治をおこなったころの歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について、歌舞伎や浮世絵の作品、『解体新書』や日本地図などの学問の成果などに着目して調べ、室町文化などと比較し、町人の文化が栄え、新しい学問が起こったことを理解することができる。

小単元「8江戸の社会と文化・学問」について

歌舞伎や浮世絵はどのような人々に親しまれていたか、国学や蘭学はどのような学問だったのか、どのようにしてつくり上げられたのかなどの問いを設けて、歌舞伎や浮世絵が町人の間に広がったことや国学や蘭学が起こったことを調べ、これらの事象を関連づけたり総合したりして、このころに栄えた町人の文化や新しい学問を生み出した人物の業績や背景、理由を考え、文章で記述したり説明したりすることが考えられる。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……江戸時代の百姓や町人の様子、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、産業が発達したこと、流通経路の整備や販売の工夫により町人が力をつけていったこと、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことを理解するとともに、絵図や地図、統計、浮世絵、想像図などの基礎的資料を効果的に活用して具体的に調べ、目的に応じた方法で分かりやすくまとめている。
- ▶ **思考・判断・表現** ……当時の百姓や町人の様子、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について追究し、産業が発達し、町人が力をつけてきたことや社会が安定すること、歌舞伎や浮世絵などの文化が町人の間に広がり、国学や蘭学などの新しい学問が起こったことを関連づけて考え、調べたことや考えたことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む** ……江戸時代の産業の発達により町人が力をつけてきたことや、町人の文化が栄え、新しい学問が起こったことについて、意欲的に調べ考えている。

小単元「8江戸の社会と文化・学問」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	2学期	11月	江戸のまちのようす ①	・「江戸のまちのようす」の絵図を手がかりに、町人のくらしや武士との関係に関心をもち、学習計画を立て、学習の見通しをもつことができる。	【主体的】 江戸のまちや人々のくらしの様子に関心をもち、学習計画を立てて意欲的に追究しようとしている。
			町人文化の広がり ①	・町人が力をつけていったことで生まれた文化や学問に関心をもち、主に歌舞伎や人形浄瑠璃などを調べ、町人文化が栄えたことについて考えることができる。	【主体的】 江戸時代の人々の楽しみに関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究しようとしている。
			蘭学のはじまり ①	・杉田玄白や伊能忠敬の功績について調べ、蘭学という新しい学問が生まれ、社会に様々な影響を及ぼしたことを理解し、江戸時代の人々のくらしについて文化や学問にふれ、自分の考えを明らかにすることができる。	【思・判・表】 江戸時代の人々のくらしについて、文化や学問にふれながら自分の考えを明らかにしている。
			国学の広がり子どもの教育 ①	・幕府が重んじた儒学や新しく起こった国学、寺子屋について調べ、それらが社会に果たした役割について意欲的に調べることができる。	【主体的】 江戸時代の学問に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
			発達した都市と産業 ①	・江戸時代の産業や百姓のくらしの変化について調べ、産業や交易の発展とともに江戸や大阪などのまちが発展したことや、人々の工夫や努力によって各地の産業が発展した様子を理解することができる。	【知・技】 農業技術の向上により、耕地面積増加につながっていったことを理解している。
			学習問題について話し合う ①	・江戸時代の文化について、百姓、町人、武士の関わりについて、ノートにまとめ話し合い、文化についての自分の考えの変化について、ワークシートにまとめることができる。	【思・判・表】 江戸時代の文化と室町時代の文化の違いや共通点について、ワークシートなどにまとめている。

9 明治の新しい国づくり

配当時間 全6時間
学習時期 11月
教科書 P.166～177

小単元「9明治の新しい国づくり」のねらい

黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などに着目して、絵画や地図、年表などの資料で調べ、まとめ、このころの政治の仕組みや世の中の様子をとりえ、その変化を考え、表現することを通して、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ、近代化を進めたことを理解することができる。

小単元「9明治の新しい国づくり」について

導入では、「江戸時代の終わりごろの江戸のようす」と「明治時代の東京のようす」を比較する活動を通して、「なぜ、このような変化が起こったのか」「新しい明治という時代の、社会や世の中の仕組みはどのようなものだったのか」という問題意識を高め、追究活動へとつなげる展開としている。

終末では、「何をきっかけに、世の中はどう変化したのか」を考えさせ、明治維新を機に日本の近代化が進んだことを理解できるようにしたい。

小単元「9明治の新しい国づくり」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	2学期	11月	江戸時代から新しい時代へ ①	江戸時代と明治時代のまちの様子を比較することを通して、人々のくらしが欧米の文化や制度を取り入れたことで大きく変化したことを理解するとともに、新しい国づくりがどのように進められたのかについて興味をもち、学習問題を考え、調べる学習計画を立てることができる。	【主体的】 江戸と東京のまちの様子や人々のくらしの変化を進んで見つけ、そのような変化が起こった理由を予想したり考えたりして、学習計画を立てている。
			黒船の来航と開国 ①	世の中が大きく変わるきっかけとなった黒船の来航について調べ、二つの条約が結ばれたこと、それにより長く続いた鎖国が終わったことを理解することができる。	【思・判・表】 二つの条約の内容を調べ、この条約により日本の鎖国と呼ばれた状態が終わったことを理解し、条約が今後どのような影響を与えるかを予想している。
			高まる人々の不満 ①	開国後の国内の影響について調べ、幕府や藩の政治の失敗、物価の上昇に対する民衆の不満から天皇中心の国家をつくる運動が起こり、武士の世の中を終わらせることにつながったことについて理解することができる。	【知・技】 世の中の様々な動きについて問題意識をもって調べ、調べたことをもとに、開国から倒幕までの世の中の状況を理解している。
			新しい政府による政治 ①	新政府がおこなった政策について調べ、新政府がどのような世の中をつくっていかうとしたのかを考えることができる。	【思・判・表】 新政府がおこなった様々な政策を調べ、新政府がどのような世の中をつくっていかうとしたのかを考えている。
			明治政府の改革 ①	富国強兵や殖産興業について調べ、様々な政策や欧米からの学びにより、我が国の近代化が進んだことを理解することができる。	【知・技】 富国強兵や殖産興業について調べ、様々な政策や欧米からの学びにより、我が国の近代化が進んだことを理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……ペリーの来航や新政府が進めた新しい国づくりについて調べることを通して、我が国が開国し、江戸幕府が倒れるきっかけとなったことや、欧米の文化を取り入れ近代化が進んだこと、欧米諸国と対等な関係を構築しようとしたことを理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……幕末から明治維新につながる世の中の学習や新政府が進めた新しい国づくりの学習を通して、歴史事象を具体的に調べ、それらの時代の人々の働きを考え、調べたことや考えたことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……幕末から明治維新につながる世の中の動きや新政府が進めた新しい国づくりに関心をもち、政治や社会の仕組みの変化などを意欲的に調べようとしている。

後期	2学期	11月	文明開化とくらしの変化①	・明治時代の人々のくらしについて興味をもって調べたり、時代の変化について年表にまとめたりすることを通して、日本は、近代化によって人々のくらしや文化にも変化が起こったことを考え、時代の変化を年表にまとめ、学習問題について話し合うことができる。	【思・判・表】 日本は、近代化によって人々のくらしや文化に変化が起こったことを理解し、時代の変化についてノートや年表にまとめている。
----	-----	-----	--------------	--	---

10 国力の充実をめざす日本と国際社会

配当時間 全7時間
学習時期 12月 教科書 P.178～191

小単元「10 国力の充実をめざす日本と国際社会」のねらい

ノルマントン号事件や不平等条約を手がかりにして、明治中・後期、政府に不満をもっていた自由民権運動の動きや、大日本帝国憲法の発布と国会開設、日清・日露の戦争や不平等な条約の改正の経過、その後の日本の産業の発達、人々の生活を守る運動などについて調べ、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことや、人々の生活や社会に大きな変化をもたらしたことを理解することができる。

小単元「10 国力の充実をめざす日本と国際社会」について

ノルマントン号事件以後、不平等条約の改正に至るまで、日本がどのようなあゆみをしたのかを調べ、ことを学習問題としている。明治政府の意図や大日本帝国憲法、国会の特徴をとらえ、欧米諸国に追いつこうとしていることに気づき、日本がどのように国力をつけていくのかを追究していく。日清・日露戦争を通して、アジアや欧米諸国との関係の変化や産業の発達、それにとまなう国内のくらしの近代化や人々の民主主義へ意識の高まりもとらえることができる展開である。

小単元「10 国力の充実をめざす日本と国際社会」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二期制	三期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	2 学期	12 月	ノルマントン号事件と条約改正 ①	・ノルマントン号事件と条約改正を手がかりにして、明治維新の後、新しい国づくりをした日本の動きに関心をもち、学習問題を考えることができる。	【主体的】 日本の国際的地位の変化とその背景に関心をもち、問題解決の見通しをもって主体的に学習問題を設定しようとしている。
			自由民権運動の広がり ①	・自由民権運動の高まりについて調べ、新しい政治の仕組みや人々の願いについて考え、武力ではなく言論によって政治の進め方が変わってきたことに気づくことができる。	【思・判・表】 国会の開設を求めた板垣退助の働きやその後の政府の対応などについて、教科書の本文記述や資料から自由民権運動の広がりについて考えている。
			大日本帝国憲法の発布と国会の開設 ①	・憲法の制定や、国会が開設されるまでの過程を調べ、明治政府がめざした政治のあり方がどのようなものだったのかを考え、話し合うことができる。	【知・技】 大日本帝国憲法は、天皇中心の憲法で、国民の権利には様々な制限があったことを理解している。
			日清・日露の戦い ①	・日清・日露戦争について調べ、二つの戦争を経て日本の国際的地位が向上したというわけで、朝鮮半島に勢力を拡大したことを理解することができる。	【知・技】 日清・日露戦争の原因や過程・結果を知り、日本の国際的地位が向上し、朝鮮半島に勢力を拡大したことを理解している。
			日露戦争後の日本のようす ①	・日露戦争後に日本が韓国にとった政策や、日露戦争後の日本とアジアや欧米諸国との関係について考えることができる。	【知・技】 日露戦争後の日本の植民地政策を調べることを通して、日本や朝鮮の人々の思いを理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……明治政府に関わる人物の業績や当時の人々の生活の様子、当時の国際関係などを写真や絵図などの資料を活用して調べ、大日本帝国憲法の発布や日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などをもとに、日本の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……日本の国際的地位の向上をめざす明治政府の意図や、世の中の変化の様子について考えたことや、それに関わる人物の動きやその思いについて調べたことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……条約改正に向けて、問題解決の見通しをもって主体的に学習問題を追究している。日本の国力の充実や国際的地位の向上に関わる人々の思いや願いを考えている。

後期	2 学期	12 月	産業の発展と人々のくらし ①	・日清戦争前後の日本国内の産業や、その後の人々の生活の様子などについて調べ、国内の産業の力が充実するとともに、くらしにも変化が生じ、様々な社会問題が生まれたこと、世界で活躍する日本人が出てきたことを理解することができる。	【知・技】 国内産業の発展の様子を調べ、それにとまなう、社会問題が生まれたことや、近代的な生活が広がったこと、世界で活躍した日本人が現れたことを理解している。
			よりよく生きる権利を求めて ①	・人々の生活を守る社会運動について調べ、当時の人々が自由と権利を求めて立ち上がったことと、政府の対応について考え、学習問題について、自分の考えを発表したり、みんなで深めたりすることができる。	【思・判・表】 明治・大正時代に日本の国力が充実していった様子や、人々が自由と権利を求めて立ち上がったことについて、学習したことをワークシートやノートにまとめ、友だちと話し合っている。

11 アジア・太平洋に広がる戦争

配当時間 全8時間
学習時期 1月 教科書 P.196～213

小単元「11 アジア・太平洋に広がる戦争」のねらい

日中戦争や第二次世界大戦、戦時中の人々の暮らしに着目して、中国との戦いが全面化したことや、アジア・太平洋地域において連合国との戦いに進行したこと、日本が戦時体制に移行したこと、国内各地への空襲、沖縄戦、原爆投下など、国民が大きな被害を受けたことを理解することができる。

小単元「11 アジア・太平洋に広がる戦争」について

1914年当時の日本の好景気の様子から、学習を始め、関東大震災や世界恐慌からの不景気を抜け出そうと、日本が満州事変を起こし、中国との全面戦争に突入し、東南アジアから太平洋にまで戦場が広がっていったことをとらえられる。

戦争が人々の暮らしに大きな影響を与えたことを考えるとともに、アメリカ軍の攻撃で、多くの若者の命だけでなく、多くの一般国民の命が犠牲となったことや、原爆投下による甚大な被害によって日本が全面降伏し、戦争が終結したことをとらえられるようにしている。

小単元「11 アジア・太平洋に広がる戦争」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	3学期	1月	好景気から不景気へ ①	・日清・日露戦争を経て、国力を高めてきた日本が、第一次世界大戦からのヨーロッパ諸国の立ち直りと関東大震災、世界恐慌の影響を受け、不景気におちいったことを理解するとともに、その当時の日本の様子から学習問題を見出し、今後の日本の歩みについて学習計画を立てることができる。	【主体的】 当時の写真や地図、グラフなどの資料を手掛かりとして、当時の日本の様子を調べ、その後の日本の歩みについて意欲的に学習問題を考えている。
			満州事変と孤立する日本 ①	・1930年当時、不景気に苦しむ日本が大陸に進出し、満州事変に至る経過と理由をとらえることができる。	【知・技】 満州事変以降の日本国内の様子や、日本と世界、中国との関係を理解している。
			長引く中国との戦争 ①	・日本は中国との全面戦争を始め、日本が中国に与えた影響や中国との戦争が長期化した経緯をとらえることができる。	【知・技】 戦場が中国へと広がっていった様子や、それぞれの地域に大きな損害を与えたことを理解している。
			アジアや太平洋に広がる戦場 ①	・東南アジアから太平洋にまで戦場が広がっていった結果、アメリカ・イギリスとの太平洋戦争に突入していったことをとらえることができる。	【知・技】 戦場が中国からアジア・太平洋の地域へと広がっていった様子や、それぞれの地域に大きな損害を与えたことを理解している。
			戦争で大きく変わった人々の暮らし ①	・戦争の拡大に伴い、占領地の人々に様々な影響が及んだことや、国民生活が戦争中心になっていく過程を調べ、戦争が人々の生活に大きな影響を与えたことを考えることができる。	【思・判・表】 戦争中のアジアや国内の人々の暮らしを調べ、人々が生命の危機にさらされ、自由を奪われた窮乏生活を強いられたことを考えている。
			空襲で焼きつくされる国土 ①	・アメリカ軍の攻撃で、兵士だけでなく、多くの一般国民が戦争の犠牲になったり、家を失ったりしたことをとらえることができる。	【知・技】 本土への空襲を調べ、兵士だけでなく、多くの一般国民が戦争の被害にあったことを理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……日本が不景気から抜け出そうとして、大陸に進出し、満州事変から中国との全面戦争に突入したことや、戦局の拡大に伴って連合国との戦いに進行した流れをとらえるとともに、日本が戦時体制に移行したことや、空襲、沖縄戦、原爆投下など、国民が大きな被害を受けたことを理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……戦争の経過や戦場の広がり、戦時下の人々の様子について、地域の資料館の見学や戦争体験者からの聞き取り活動などを通して具体的に調べ、それらの時代の人々の思いや立場について考えたり、考えたり調べたりしたことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……戦争の始まりや戦争の広がり、各地への空襲、沖縄戦、原爆投下、戦時下の国民の暮らしなどの歴史的事象について、関心をもち、当時の日本の様子について意欲的に調べている。

後期	3学期	1月	戦場となった沖縄 ①	・子どもや女性、高齢の住民までも巻き込んだ沖縄戦の様子について調べ、若者たちが、戦闘に参加せざるを得なかった時代の恐ろしさなどについて、カードにまとめることができる。	【思・判・表】 住民を巻き込み、若者が戦闘に参加せざるを得なかったことを理解し、自分の考えをまとめている。
			広島・長崎への原爆投下と日本の敗戦／学習問題について話し合う ①	・原爆投下による広島・長崎の甚大な被害によって日本が全面降伏し、戦争が終結したことをとらえ、これまでの学習を振り返り、新聞にまとめ、日本はなぜ、戦争をしたのかについて話し合うことができる。	【思・判・表】 戦争や戦争中の人々の暮らしなどについて調べたり考えたりしたことを、根拠をもとに新聞などに表現し、話し合っている。

12 新しい日本へのあゆみ

配当時間 全7時間+1時間
学習時期 1～2月
教科書 P.214～229

小単元「12 新しい日本へのあゆみ」のねらい

戦後の日本国憲法の制定や国内産業の発達などに着目して、日本が民主的な国家として出発し国際社会に復帰したこと、産業の発達により国民生活が向上したこと、アジアで初めて東京オリンピック・パラリンピック大会が開催され、スポーツを通じた世界平和の実現に貢献してきたことなどを調べ、戦後、我が国は民主的な国家として出発したことで国民生活が向上し、国際社会のなかで重要な役割を果たしてきたことを理解することができる。

小単元「12 新しい日本へのあゆみ」について

終戦直後の焼け野原から、現在の平和で繁栄した社会になるまでに人々の暮らしや、国際社会との関わりはどのように変わったのか調べる展開である。敗戦後、連合国軍に占領されるなかで、どのように新しい国づくりの改革をおこなって、国際社会へ復帰したのか追究していく。また、産業の発展や人々の暮らしの向上、現在につながる国際社会との関わりや残された課題を調べ、日本がこれから国際社会のなかで果たす役割について自分の考えをもち、深める活動を展開している。

小単元「12 新しい日本へのあゆみ」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	3学期	1月	終戦直後の人々の暮らし ①	・戦争によって破壊されたまちの様子や、戦後の人々の暮らしの様子を調べ、戦後の住むところに苦労したり、食べるものが少なかったりした時代から現在の豊かな暮らしができるようになるには、どのような苦労があったのかを考え、学習問題を見出すことができる。	【主体的】 終戦直後と現在のまちの様子や人々の暮らしの様子などを比較することなどを通して、学習問題や学習の計画を考えている。
			新しい国づくりがはじまる ①	・日本が、連合国軍の指令を受けて民主化のための改革を進めたことを調べ、平和で民主的な国としての基本を示した日本国憲法を制定したことを理解することができる。	【主体的】 戦後の主な改革について資料から読み取るとともに、当時の人たちの新しい憲法への思いを考えている。
			日本の国際社会への復帰 ①	・サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約について調べ、アメリカとソ連とが東西冷戦の対立を深めていくなかで、日本がアメリカとの関係を深めたことを理解することができる。	【知・技】 アメリカとソ連との対立のもとで、日本はアメリカとの関係を深めたことを理解している。
		2月	産業の発展と人々の暮らしの変化 ①	・発展した日本の経済や人々の暮らしの変化について調べ、高度経済成長の背景には、日本の高い技術力や人々の努力があったこと、それに伴う公害問題が起こったことを理解することができる。	【知・技】 高度経済成長の背景について考え、ワークシートやノートにまとめている。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……我が国の戦後の復興について、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などに着目して、戦後、我が国は民主的な国家として出発し、国民の努力により国民生活が向上し、国際社会のなかで重要な役割を果たしてきたことを、写真やグラフ・表などの資料の活用を図り、理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などに着目し、我が国の政治や人々の生活が変化したこと、我が国が国際社会において果たしてきた役割について、調べたり考えたりしたことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……戦後の我が国の復興や国民生活の様子について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追究するとともに、これから我が国が国際社会のなかで果たす役割などについて考えている。

後期	3学期	2月	国際社会のなかの日本 ①	・オリンピックや日本万国博覧会などの国際社会と日本との関わりについて調べ、経済が発展するとともに国際社会のなかで世界の国々との友好を深めたり、文化の向上に貢献してきたりした日本の役割を考察することができる。	【思・判・表】 国際社会における日本の役割について、今までの取り組みを踏まえて、自分の考えをノートなどにまとめている。
			日本と国際社会を取りまく問題 ①	・戦後、経済的に発展してきた日本に残された、領土などの課題について調べ、これからの未来に向けて期待される自分たちの役割について考えることができる。	【思・判・表】 領土や国境をめぐる課題の解決へ向けて、自分の考えをノートなどにまとめている。
			これからの日本とわたしたち ①	・戦後の経済成長や国際的な役割を担ってきた日本の姿、これから解決しなくてはならない課題などについて話し合い、歴史を学ぶ意義を考えるとともに、これから自分たちに期待されていることを意欲的に考え、ノートにまとめ、学習問題について、自分の考えを話し合うことができる。	【主体的】 歴史学習全体を振り返り、歴史を学ぶ意義やこれから考えたいことについて、意欲的に自分の考えをノートやワークシートにまとめている。
			日本の歴史の学習を終えて／時間旅行を終えて ①	・日本の歴史の時間旅行について、見つけた歴史のサイン「交通」を調べ、交通の発達により、移動時間が短くなり、地域に新しい関係が生じるとい歴史を学ぶ意味を理解し、世界に目を向け、調べようとする興味関心をもつことができる。	【主体的】 日本の歴史の時間旅行について、これまでの歴史学習を通して、自分の歴史のサインを見出し、適切に表現している。

1 日本とつながりの深い国々

配当時間 全7時間
学習時期 2月 教科書 P.232～257

小単元「1日本とつながりの深い国々」のねらい

グローバル化する世界と日本の役割について、外国の人々の生活の様子などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、レポートなどにまとめ、日本の文化や習慣との違いをとらえ、国際交流の果たす役割を考え、表現したりすることを通して、我が国の経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解することができる。

小単元「1日本とつながりの深い国々」について

日本とつながりが深い国として、4か国の中から1か国を選び、日本との経済、歴史、文化のつながり及び、子どもの学校生活や人々の生活について調べることを通して、国の特色や人々の暮らしについて追究する展開としている。その際、子どもが自分なりの方法で調べ、まとめられるようにすることが大切である。

また、スポーツや文化による国際交流の事例を取り上げ、世界の国々のつながりや、よりよい国際関係を築いていこうとする取り組みについて学習する。

小単元「1つながりの深い国々」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	3 学期	2 月	大単元の導入 世界に目を向けよう ①	・SDGsの目標や海外で活躍する日本人の姿から、世界の国に目を向け、日本とのつながりや国際交流について興味をもち、調べてみたいという思いをもつことができる。	【主体的】 既存の知識や地図の情報などから、日本人の活躍やその国の様子について考え、調べてようとしている。
			日本とつながりの深い国々 ①	・日本とつながりのある国について知っていることを出し合い、日本とつながりがある国について、より深く調べたいという思いをもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 調べたいことを明確にして、調べ方やまとめ方の見通しをもって計画を立てている。
			アメリカ合衆国の暮らし／子どもたちのようす ※②	・アメリカと日本との歴史や貿易などのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。	【知・技】 アメリカと日本との貿易などのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について理解している。
			中華人民共和国とのつながり／子どもたちのようす ※②	・中国と日本との歴史や経済、文化のつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。	【知・技】 中国と日本との歴史や経済、文化などのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について理解している。
			ブラジル連邦共和国の暮らし／子どもたちのようす ※②	・ブラジルと日本とのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。	【知・技】 ブラジルと日本とのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について理解している。
			大韓民国の暮らし／子どもたちのようす ※②	・大韓民国と日本とのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。	【知・技】 大韓民国と日本とのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶知識・技能 ……我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流することで、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解し、課題の解決に向けた連携・協力などについて、各種の資料で調べ、まとめている。
- ▶思考・判断・表現 ……外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いをとらえ、国際交流の果たす役割を考え、表現している。
- ▶主体的に学習に取り組む態度 ……外国の人々の生活の様子などについて、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を解決しようとするとともに、世界の人々と共に生きることの大切さについて考えようとしている。

後期	3 学期	2 月	調べてきた国々のようす ①	・日本と世界の国々とのつながりについて学び、世界の国々の多様性に気づき、共通点や相違点を見出し、そこでくらす人々とのように交流しているのかを追究したいという「さらに考えたい問題」をつくることができる。	【主体的】 調べた国のことを振り返り、世界の人々の多様性について考えようとしている。
			スポーツによる国際交流 ①	・オリンピックやパラリンピックなど、スポーツを通じて国際交流することで、お互いの歴史や文化を理解し、尊重し合って平和な世界をつくる努力をしていることを考えることができる。	【思・判・表】 スポーツを通じた国際交流について調べ、どんな意義があるか考えている。
			文化による国際交流 ①	・スポーツ以外にも、国際的な文化交流や日本からの文化発信を通して、世界中の国々が相互理解を図り、平和な世界を実現しようと取り組んでいることを理解し、「さらに考えたい問題」について話し合うことができる。	【思・判・表】 文化的な国際交流について調べ、それについてどんな意義があるか考えている。

※調べる国については、4か国の中から1か国を選択

2 世界がかかえる問題と日本の役割 配当時間 全6時間 教科書 P.260～271
学習時期 3月

小単元「2世界がかかえる問題と日本の役割」のねらい

地球規模で発生している課題の解決に向けた国際的な連携・協力などに着目して、地図帳や地球儀などの各種の資料で調べ、まとめ、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子をとらえ、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現することを通して、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力をおこなったりしていることを理解することができる。

小単元「2世界がかかえる問題と日本の役割」について

導入では、世界規模で戦争や紛争、環境破壊や地球温暖化などの問題が起きていることに気づかせる。追究段階では、これらの問題をどのように解決しようとしているのか、「だれが」「どのような方法で」を視点として追究する。また、国際連合の働きと目的、日本の国際協力について調べ、学習問題について話し合い、「さらに考えたい問題」を設定する。「さらに考えたい問題」の追究では、国際社会において日本が果たしている役割について調べ、最後に、世界における日本の役割などについて話し合い、自分に何ができるのかを考え、深め合う活動を展開している。

小単元「2世界がかかえる問題と日本の役割」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	3学期	3月	世界がかかえるさまざまな問題 ①	・写真資料を通して、世界がかかえる様々な問題について話し合い、だれが、どのように解決しようとしているのかを予想し、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	【主体的】 写真資料をもとに、世界がかかえる様々な問題について調べ、話し合いを通して意欲的に学習問題を立てている。
			世界平和に向けた取り組み ①	・戦争や紛争、飢えや病気に苦しむ人々の現状に問題意識をもち、国連やユネスコの活動を意欲的に調べ、問題の解決のために自分と関わらせながら考えることができる。	【主体的】 戦争や紛争、飢えや病気に苦しむ人々の現状に問題意識をもち、国連やユネスコの活動を意欲的に調べ、問題の解決のために自分と関わらせながら考えている。
			世界の環境保全に向けた取り組み ①	・地球規模で起きている様々な地球環境問題を通して、持続可能な開発のためには国連が中心となり、各国やNGO、市民が協力して取り組むことが大切であることを理解することができる。	【知・技】 地球環境問題を通して、国連が中心となって国やNGO、市民が協力して地球環境問題に取り組むことで、持続可能な開発が可能になることを理解している。
			国連のはたらきと目的 ①	・国連憲章を調べることを通して、国際連合がどのような目的でつくられ、どのような働きをしているのかを調べ、学習問題を話し合い、「さらに考えたい問題」を考えることができる。	【知・技】 国連憲章をもとに、国連の目的や安全保障理事会、ユニセフ、ユネスコの働きについて調べ、世界の平和と国際協力をめざして活動する国際連合の動きについて考え、まとめている。
			日本の人々の国際協力 ①	・日本がおこなっている発展途上国への教育や農業、医療などの支援や援助の様子を調べることを通して、様々な分野で日本は国際協力に参加していることをとらえることができる。	【知・技】 日本は青年海外協力隊などによる支援を通して、様々な分野で国際協力に参加していることを理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力をおこなったりしていることを理解するとともに、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめている。
- ▶ **思考・判断・表現** ……地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子をとらえ、国際社会において我が国が果たしている役割について考え、これからの国際社会に対して自分ができることを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……国際社会がかかえる様々な問題について、学習問題を意欲的に追究し、これまでの学習を振り返って、学習したことを確かめようとしている。今後、我が国が国際社会で果たすべき役割などを考え、自分の考えをまとめようとしている。

後期	3学期	3月	自分の考えを深めよう ①	・日本がおこなっている国際協力について心に残っていることや、世界における日本の役割について考えたことをタブレットにまとめ、自分の考えを見直し、深め合いをすることができる。	【思・判・表】 世界の人々ともに生きていくために自分がこれから取り組みたいことを考え、グループのなかで発表し、意見を交流して自分の考えを表現している。
----	-----	----	--------------	---	--